

城の基礎の構造

城の基礎となる石垣は、近隣の山から切り出した荒削りの石材で造られている。この方法は、16 世紀後半には珍しくなくなった、石材を軽く加工して組み立てる方法である。丁寧に加工された石垣に比べれば、洗練されているとはいえないが、手間がかからないので早く完成させることができた。また、石と石の間に隙間があるため、水捌けがよい。また、基礎の角には、長方形の石を交互に並べて、安定性を高めている。松本城は沖積平野にあるため、基礎が徐々に沈下して大天守が倒壊する恐れがあった。これを防ぐために、支柱を設けた。石垣を積む前に、石垣の底になる部分に、3 メートルの丸太を約 50 センチ間隔で水平に敷き詰めた。これは、天守閣の重さをより分散させるために、筏のような構造にするためだ。さらにその上に、壁の足元と平行に丸太を積み重ね、土台の大きな石を支える「枕」を作った。さらに、土台から約 5 メートルの堀の下には、丸太を 2 列、垂直に打ち込んでいる。この丸太の列は、土をさらに固め、土の部分全体がずれたり滑ったりしないようにするためと考えられている。